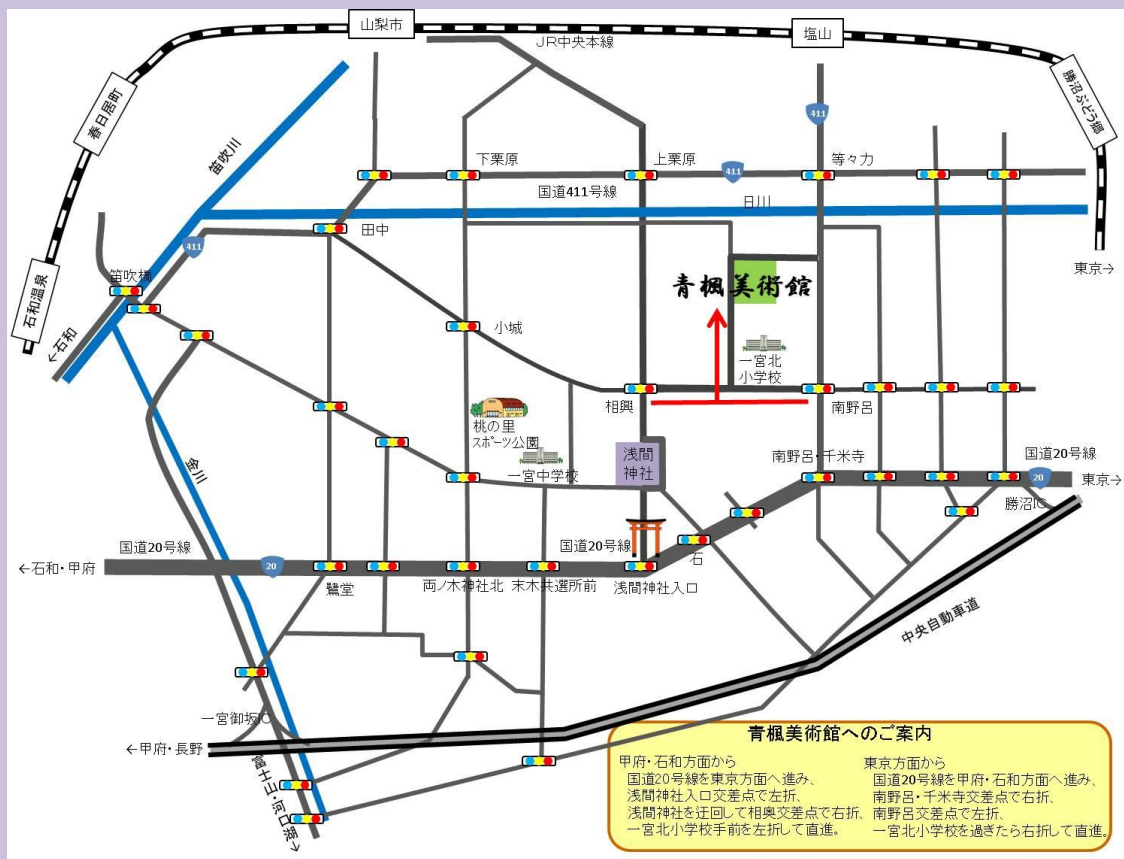


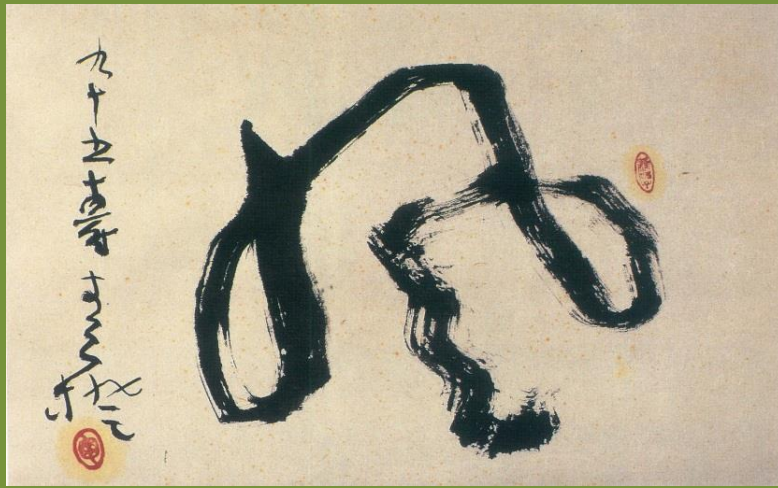
津田青楓略年譜

明治	13年	1880		京都市中京区に生まれる。本名亀治郎
	24年	1891	11才	母方の津田姓を名乗る。
	30年	1897	17才	日本画家谷口香嶠塾に入門。
	32年	1899	19才	関西美術院に通い、浅井忠の指導を受ける。
	40年	1907	27才	農商務省実業練習生となり、安井曾太郎とともに渡仏。 アカデミー・ジュリアンに通い、J・P・ローランスの指導を受ける。
	43年	1910	30才	マルセーユから船で帰国。船中で浅井忠の訃報を聞く。
	44年	1911	31才	夏目漱石の木曜会の常連となる。
	45年	1912	32才	上野竹之台陳列館に帰朝作43点を出品。
	大正	3年	1914	34才
6年		1917	37才	漱石『明暗』を装丁。
7年		1918	38才	この頃より日本画を手がけ、石井柏亭と新日本画展覧会を開催。
14年		1925	45才	近藤浩一路、九里四郎らと日本語研究会(三条会)をつくる。
昭和	6年	1931	51才	第18回二科展に『ブルジョア議会と民衆の生活』を出品。
	8年	1933	53才	河上肇検挙され、津田青楓も留置される。 二科会を脱会し、もっぱら日本画に精進する。
	12年	1937	57才	小川芋銭、小杉放庵、中川一政らと墨人倶楽部を結成。
	31年	1956	76才	「津田青楓・喜寿記念回顧展」開催。
	36年	1961	81才	「津田青楓個展」開催。
	38年	1963	82才	自伝『老画家の一生』(上・下)を刊行。
	41年	1967	86才	「画業70周年記念・津田青楓日本画展」を開催。
	49年	1974	94才	一宮町に青楓美術館開館
	50年	1975	95才	「富嶽百景」個展。 「春風秋雨九十六年展－忘れ得ぬ人たち－」 「津田青楓墨彩小品展」を開催。
	53年	1978	98才	東京都久我山の自宅で没する。



書と日本画に遊ぶ

文人画家 津田青楓の世界



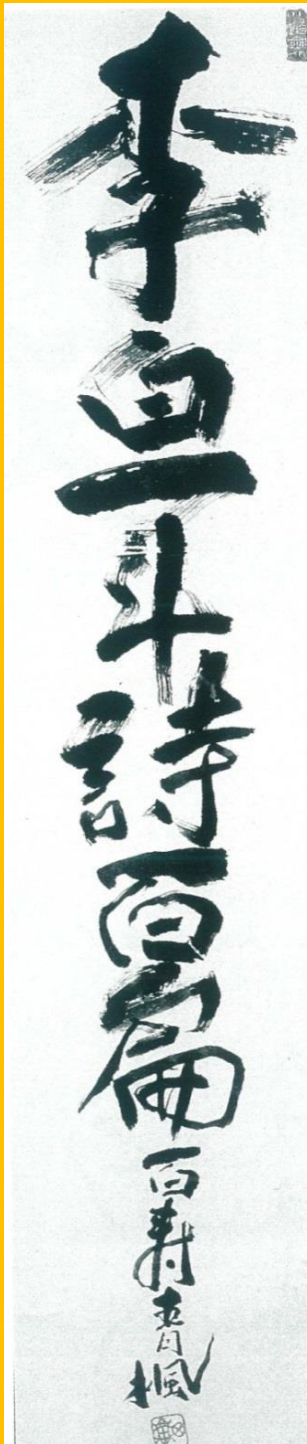
『風』

津田青楓は、絵画の他に多くの書や和歌をのこしました。その多くは、中国の漢詩や、仏教用語の一節を用いた力強い漢詩作品と、自作の和歌や万葉集・良寛の作品からの、やわらかな仮名文字の作品です。

それらは、多くの事を学んできた青楓の知識や教養の広さ、心の深さなどが表現され、それぞれ魅力的な作品となっています。

また、独自の画風で表現された日本画は、歳を重ねるほどに、力強く、大胆になっていき、時にユーモアを交えるなど、遊び心が伺える親しみやすい作品となっています。

「二十世紀最後の文人画家」と言われた、津田青楓の世界観をお楽しみ下さい。

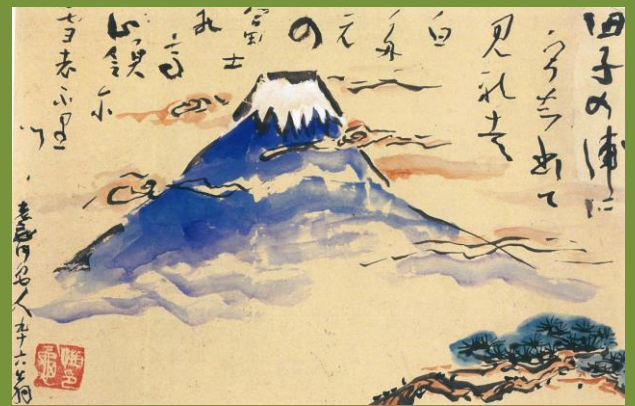


『李白一斗詩百篇』

2018年

3月23日(金)

～9月下旬(予定)



『田子の浦富士図』

笛吹市青楓美術館

Fuefuki City
SEIFU Art Museum

所在地 〒405-0051 山梨県笛吹市一宮町北野呂3-3
TEL0553-47-2122

※案内図は裏面をご覧ください。

開館時間 午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(祝日は除く) 祝日の翌日

入館料 一般300円(200円) 大・高校生200円(150円) 小・中学生100円(80円)

※()は団体20人以上の団体割引料金です。

小学生以下、65歳以上無料。

フッキーパスをお持ちの小学生児童無料。
また、児童の保護者、
同伴者何名でも無料。